

職能職域委員会 2025 年度活動計画

1. 全国大会委員会企画

1) 2025 年度全国大会で下記の通り支部報告・交流会を開催する

- ・方法 各支部のポスター掲示（新潟支部を除けば 19 支部）
- ・掲示場所 休憩室または適当な通路やホールの一角
- ・掲示方法 初日午前中から 2 日目午後まで掲示し、両日の昼休みのいずれかに支部代表者が 30 分以上の立ち番をして、名刺交換や掲示内容の説明を行なう。あらかじめ、説明者が立つ時間と掲示内容のタイトルを公表する。
- ・主旨 支部の独自活動から他支部が学ぶ。例えば、士会懸案の事例検討会の開催方法について、推進先行の支部から学ぶ。
- ・掲示内容 支部の独自性・独自活動のアピールまたは 2025 年度活動の状況と計画、または 2024 年度活動報告（見出しにその旨を表示）

2. 2025 年度「士会会員の意識と動向」全国調査

- ・内容 基本的には前回(2000 年度)の調査内容を下敷きにして、その後の変化を追う。公認心理師や SV 資格を含めて、他資格の取得状況も問う。今年度の独自調査内容を執行部と職能委で審議する。士会会員であることのメリットをどう感じているか調査することなどが考えられる。
- ・調査時期 2025 年度内
- ・調査と集計
- ・分析方法 執行部と職能委で審議しながら、クロス集計すべき点などを決定する、結果の解釈は職能委が原案を出して、執行部が承認する。

3. 職域開拓及び職能資質向上に関する企画とその協議

- 1) 2022 年度の協議からの懸案だが、継続して、臨床発達心理士資格者の求人実態（この資格の指定と資格手当）を調査する。会員にも所属先の実態報告を依頼するほか、ネット求人情報などを予定する。ネット調査は地域ごとに各委員で分担し、院生などのアルバイトを雇用する（20,000 円×6 人）。
- 2) スクールカウンセラーが学校現場でアセスメントを実施しにくい実情があるとのことで、その実態（その理由を含む）を調べて、ガイダンスカウンセラーの採用を働きかけるとともに臨床発達心理士が採用されている場合は検査実施が可能となるように各教委に働きかける企画の具体化を進める（継続案件）。

※予算案：企画 2) に郵便を使う場合の予算 60,000 円（とりあえずは、全国全教委には行わず、政令指定都市などから行なう）

4. 委員会の開催

- 1) 定例：8～9 月頃、オンライン開催を予定（全国大会を利用した対面会議も検討）
※主な議題：上記 2 及び 2025 年度全国大会企画について
- 2) 定例：2 月～3 月、オンライン開催を予定
※主な議題：上記 2、2025-2026 年度の委員構成についての審議、2025 年度全国大会企画について
- 3) 臨時：未定（メール審議も含む）

以上